

平成19年12月25日

第36号

# 素流協 News

平成19年12月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)  
TEL 019 (652) 7227 / FAX 019 (654) 8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

## 平成十九年度

### 第三回県産材利用拡大推進需給協議会

第3回県産材利用拡大推進需給協議会が12月19日(水)農林会館会議室で開催された。

協議会長である下山理事長の挨拶の後、事務局や各委員からの報告・質疑がなされた。

▽合板用県産材の供給量の実績推移と将来見通し

例年であると、8月に落ち込み、9月に盛り返すが、今年は8月の落ち込みが10月まで続いているこ

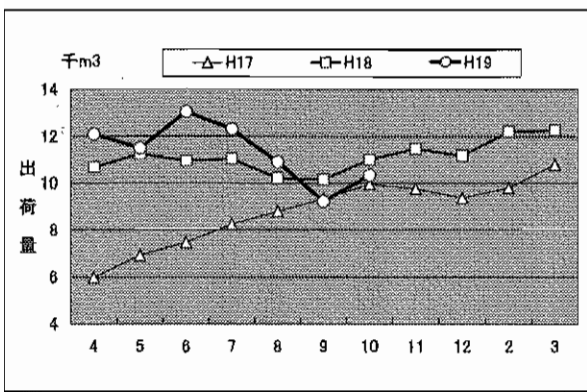


図1 月別出荷量 (3点平均表示)

とが特徴と言える。

今後、12月は、工場の受入ストックがあつたこと等により、1万㎡を割るが、1月には1万4千㎡を見込んでいます。

これは国有林の生産請負が終わり、各組合員が手山の伐採をしてくること、また青森県森林整備協が新たに賛助会員になったことによる出荷量の増を勘案していることによる。

システム販売については、今年度は、例年より出荷が1ヶ月遅れている。

#### 【質疑】

◎20年の出荷見通しは？ ↓来年度の出荷計画は、青森県森林整備協の賛助会員加入で最低でも今年度の出荷実績プラス3万㎡、17万5千㎡となるだろう。

▽合板用原木の輸入の現状と今後の見通し

南洋材…ここ4〜5ヶ月、降雨

の影響で、出材が2〜3割減少している。

更に大きな問題点は、配船状況がかなり遅れていることであり、春先までは船不足の状態が続き、日本向けの南洋材は不足気味が続くだろう。

北洋材…国内の合板工場での使用量は11〜12万㎡/月で、6月のピーク時は一五〇〜一五五ドルであつたが、それ以降価格は低下し、現在一三〇ドル前後で入ってきている。

中国の国境あたりの価格一二〇ドル前後が国際的な価格となっている。

#### 【質疑】

◎北洋材の今後の見通しは？ ↓関税問題等が今後も続くだろうから、輸入量の急激な変動はないだろう。ただ、製材品や合板単板の輸入量は増えるだろう。

◎合板の国内生産量が増えると、原材料は国産材へシフトすると考えてよいか？ ↓合板工場の国産材利用計画は二〇一七年に三〇〇

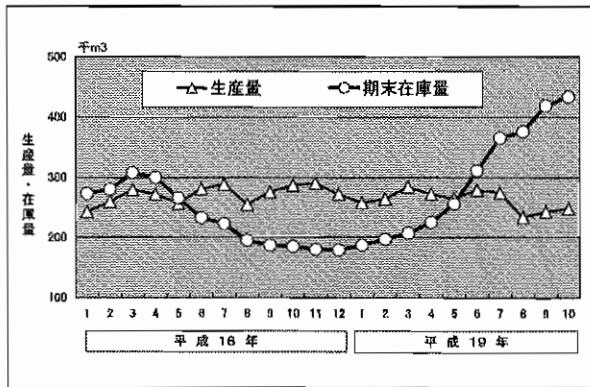


図2 普通合板の月別生産量・期末在庫量

万m<sup>3</sup>であり、まだまだ国産材利用量の増加を考えている。

ただし、合板の材料として、国産材を期待しているが、途中で安定的な供給がストップするようでは、安易に国産材を増やすわけには行かない。

安定的供給に心掛けて出荷を願いたい。

▽合板製品および広域における合板用国産原木の需給動向について

建築基準法の改正で、8月以降の新設住宅着工数は対前年比で30%とひどい状態となっており、

更に、東北・北海道では秋需を向かえる時期に重なり、最悪の状態であった。

合板の国内生産は、減産体制を強化し、輸入も、7月以降すくない量となっているが、問題なのは、10月末で四三万m<sup>3</sup>と約2ヶ月分の期末在庫量を今、工場がかかえていることである。

この数字が減少しないことには市況回復にはならない。

岩手県の補助金を利用して「ネダノンスタットレス5+」を開発、公表したが、この商品は既存住宅の耐震補強の材料として使うことが十分可能である。

【質疑】

◎ネダノンの使用量はどの程度か？

↓在来工法での新設着工住宅の1階と2階分の床材の50%となっている。

ツーバイ工法でもネダノンの使用場面が考えられてきたので、ネダノンマニュアルのツーバイバージョンを考えている。

▽素材生産事業所の現在の状況と

今後の見通しについて

・製材所の丸太受入価格が低下してきているが、合板工場の受入停止が影響していると思われる。

・私有林では、主伐が少なくなってきたが、作業道に補助金が

出ることから、間伐を実施する業者が増えてきた。

・もう少し原木代が高くなるといかと願っている状態であり、特に、16cm以下のものの単価を上げて欲しい。

「木材に関する技術開発目標」にみる木材流通関連開発目標

林野庁は、木材産業の体制整備と国産材の利用拡大に向け、今後5年間の「木材に関する技術開発目標」を策定し、公表した。

▽目標策定の視点

- ・品質・性能への対応
- ・加工技術の開発
- ・新製品の開発
- ・木質バイオマスの利用拡大

▽木材流通関連課題の具体的項目

1 品質・性能への対応  
 ◎強度・寸法安定性など物性面のデータ整備・品質管理や新製品の開発を効率的に行うため、原木と製材品の実大レベルの強度性能デー

タを樹種ごと、地域ごとに整備する。

◎耐久性のデータ整備・木材の耐用年数など、耐久性に関するデータを樹種や使用環境ごとに整備する。

◎品質・性能の分かりやすいデータの表示・消費者にとってイメージしにくい木材製品の品質・性能等の数値や用語について、分かりやすい表示方法等の検討を行う。

2 新製品の開発

◎構造材(在来工法部材)・・・在来工法住宅における国産材利用を拡大するため、歩留まり向上の観点から、厚物ラミナによる集成材の

表 平成19年1~3月期から平成20年4~6月期の実績と見通し (千m<sup>3</sup>)

		平成19年				平成20年	
		1~3月 実績	4~6月 実績	7~9月 実績	10~12月 見込み	1~3月 見通し	4~6月 見通し
国産材(製材用丸太)	需要	3345	3260	2948	3450	3200	3100
北洋材	(丸太) 需要	1203	1198	841	600	800	1000
	(製材品) 供給	1380	1421	721	390	600	900
合板	(国内製造) 需要	781	711	647	700	766	810
	(国内製造) 供給	805	816	751	695	710	730
	(輸入) 需要	1145	1239	1003	728	798	891
	(輸入) 供給	1138	1138	846	880	810	900
構造用集成材(国内製造)	供給	370	290	250	250	250	300

# 林野庁公表「主要木材の短期需給見通し」の概要

林野庁は、12月下旬に「主要木材の短期需給見通し(平成20年第

1四半期及び平成20年第2四半期)」を公表しました。

その概要を紹介します。

## 1 国産材(製材用丸太)

新設木造住宅着工戸数や1戸当たりの着工床面積のやや減少傾向は今後も続くものと見込まれることから、製材用丸太の需要は前年並みに推移するものと見通している。

## 2 北洋材(丸太・製材品)

▽丸太…需要は、新設木造住宅着工戸数の減少等により、前年同期に比べて大幅に減少するものとし、しかも、在庫の調整に時間を要することなどから、需要量は減少すると見通している。

一方、供給(輸入)は、需給動向を反映し、大幅に減少すると見

開発、強度性能向上の観点から、異樹種との組合せによる集成材の

開発を行う。

◎合板…軽量、柔軟という特性を

有するスギを使用した合板の普及を更に進めるため、施工性や意匠

性に優れたスギ等合板の開発を行う。

通している。  
▽製材品…新設木造住宅着工戸数の減少等により在庫の調整に時間を要すること、現地での製品輸出指向の高まりが見込まれることなどから、輸入の減少傾向は継続すると見通している。

## 3 合板

需要は、新設木造住宅着工戸数が前年並と見込まれるものの、在庫の調整になお時間を要することなどから、20年になっていくらか回復するものの、なお低迷が続くと見通している。

一方、供給は、需要動向を反映し、横ばいで推移するものと見通している。

また、期末在庫量は、20年になって減少するが、まだ2ヶ月以上の在庫量となると見通している。

## 4 構造用集成材

輸入集成材は、在庫調整が進展するものの、ユーロ高や産地での

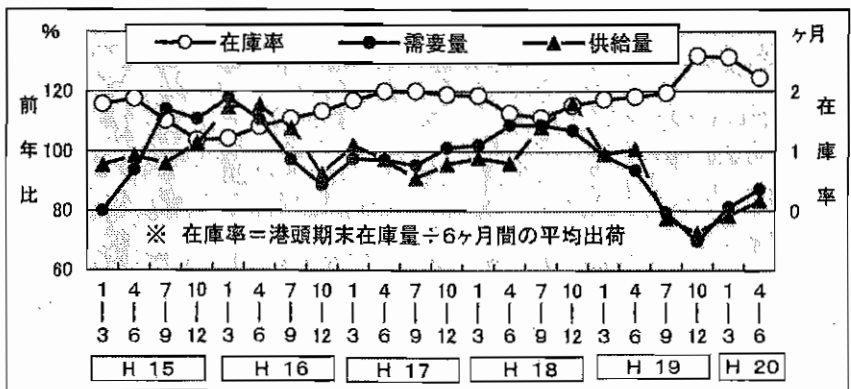


図 合板の需要量、供給量の前年比及び在庫率の推移

原料コスト高などから、少ない量が続くと思われている。

また、国内製造集成材は、減産体制により在庫の調整が進展することなどから、一定量の生産量が維持されると見通している。

## 岩手県林業技術センター

# 「平成19年度研究成果 報告会・施設一般公開」

日時 平成20年2月1日（金）

場所 岩手県林業技術センター

開催内容 口頭発表のほかに、ポスターセッションによる発表や木材実験棟・チップボイラーの見学、林業技術相談、成果展示があります。（詳細は素流協ホームページからアクセスできます。）

## 口頭発表課題

- ・マツノサイセンチュウ抵抗性育種  
一次に供給される種子の抵抗性予測
- ・いわて環境の森整備事業モニタリング  
調査 一 間伐前の林分構造
- ・乾シイタケ原木栽培作業の省力化
- ・久慈地域のアカマツ丸太の青変状況
- ・岩手県産アカマツを用いた構造用集成材の強度性能

# 一葉 合板の知識 (1)

## 1 合板(こうはん)とは

丸太を料理での大根のかつらむきのように薄く剥いで乾燥した板(単板、ベニヤなどという)に、接着剤を塗布して繊維方向が直角に交差するように互い違いに積み重ね、貼り合わせて1枚の板にしたものをいう。

ベニヤ板と呼ばれることもあるが、本来ベニヤとは単板を意味し、

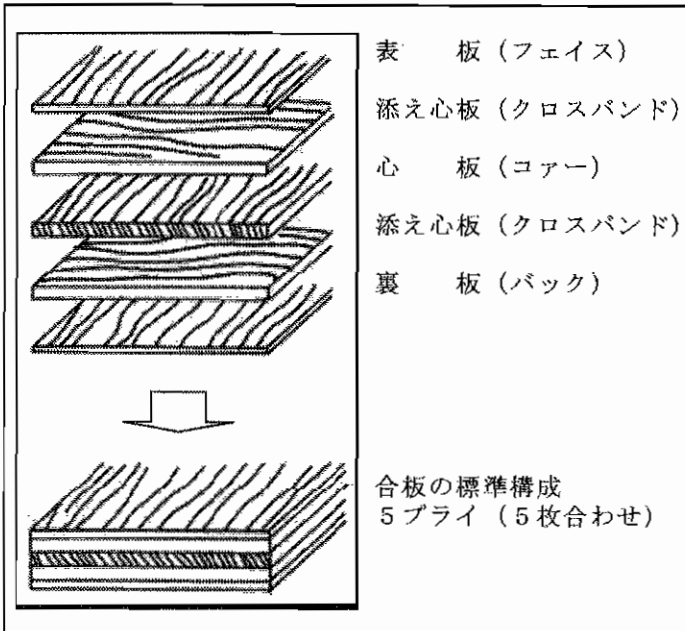
合板の英訳はプライウッドである。

なお、単板の繊維方向を平行になるようにそろえて貼り合わせたものは単板積層材(LVL)という。

## 2 製造

最初に、ロータリーレースと呼ばれる機械を用いて、原木丸太の中心を軸に回転させて切削刃を当て、丸太から薄板を剥ぎとる。

## 5枚合わせ合板の標準構成



これを一定の長さで切断し、乾燥させて単板を作る。  
次に単板に接着剤を塗布し、繊維方向を互い違いに奇数枚重ねて、熱と圧力を加えて接着剤を完全に硬化させることで合板を製造する。

## 3 特長

- ・強度性…重さの割に強い
- ・安定性…伸び縮みが少ない
- ・加工性…切断、釘打ちが容易
- ・耐震性…面的強さが大きい
- ・経済性…細い丸太からも広い面積の材料が得られる

## 理事会報告

平成19年度第3回理事会在去る12月19日(木)農林会館会議室で開催され、議案「林業機械の賃貸事業の中止について」が協議、決定されました。

## 冗談欄 鬼はなぜ笑う

死者を裁く閻魔大王は、今後裁かれる死亡予定者名簿を持っている。

大王の手下である鬼もそのコピーを渡されているらしく、来年死ぬことも知らずに、あれこれ言っている人間を見ると思わず、失笑してしまおうらしい。

鬼が出入りする方角は鬼門と呼ばれ、丑寅(ウシトラ)の方角とされている。

そのため、牛(ウシ)のようなツノを持ち、虎(トラ)の皮のパンツをはいているのであるうか。

「鬼の正体とは何か」と考えると、鬼とは人間の分身ではないか、「自分も鬼かも知れない」と思えてくる。

- ・世界鬼学会が作成した「鬼度係数テスト」なるものがある。
- ・世の中に不幸な人がいるのも仕方ないと思う。
- ・電車の中で前に老人がいても座っている。
- ・友人の不幸を黙ってみている。
- ・自分の考えをあくまでも押し通す。
- ・欲しいものは絶対に手に入れたいと思う。

平成19年11月分の販売実績

- 1 合板用の会員生産は、カラマツの出荷量が減少したが、アカマツ、スギが増大して、先月より約1,500㎡多い約8,740㎡となった。樹種別割合はカラマツ、スギの割合が減少、アカマツが増大し、また、出荷先割合は北日本プライウッドが増大し、ホクヨープライウッドと同程度となっている。なお、一関市大東町のストックヤードからの出荷量は、374㎡となっている。  
また、システム販売は、先月より約1,300㎡多い、約3,540㎡の出荷量となっている。
- 2 その他（合板用以外）の出荷量は、先月より減少し、約450㎡となっている。
- 3 年間計画量に対する10月までの累積出荷量の割合（目標達成率）を、11月までの目標達成率67%と比較すると、合板用の会員生産は若干少ないが、ほぼ順調に進捗している。合板用システム販売とその他の出荷は大きく下回っており、全体での達成率を10%程度引き下げている。

(㎡, %)

区分	出荷者	樹種	長級	販売先				累計	割合		目標達成率	19年度計画量
				ホクヨープライウッド(株)	北日本プライウッド(株)	その他	計		長級別	樹種別		
合板用	会員生産	スギ	2.0				3,771	30,632	64.1	60.2	63.6	125,000
			2.1				0	1,629	3.4			
			4.0	595	1,330		1,925	15,533	32.5			
		計	2,249	3,447		5,696	47,793	100.0				
		カラマツ	2.0	563	120		683	13,124	84.2			
			2.1	162			162	1,458	9.3			
	4.0		48	12		60	1,009	6.5				
	アカマツ	計	773	132		905	15,591	100.0	19.6			
		2.0	1,392	581		1,973	14,731	91.8	20.2			
		2.1										
		4.0		163		163	1,323	8.2				
		計	1,392	744		2,136	16,054	100.0				
	計	4,415	4,322		8,737	79,438	100.0					
	システム販売	スギ	2.0				2,785	7,865	82.8	100.0		
カラマツ			2.0	376	21		376	1,092	11.5			
アカマツ			2.0	359			380	538				
計		4.0						5.7				
計		3,134	407		3,541	9,502	100.0	61.3	145,000			
その他	スギ	2.0				63	2,456	56.9	100.0	21.6	20,000	
		カラマツ				390	390	1,723				39.9
		アカマツ										
	広葉樹					139	3.2					
計				453	453	4,318	100.0	56.5	165,000			
合計		7,549	4,730	453	12,731	93,258						

落穂拾い

或る刊行本を読んでいたら、「男時(おとことき)が去り、女時(おんなとき)が来た」という小見出しがあった。

小生寡聞にして、男時、女時という言葉を聞くのは初めてである。その意味するところを要約すると次のようになる。

《長い間、わが国の企業が振るわず、停滞の10年とか15年と言われてきたが、わが国の経済力の弱体化、例えば、国内総生産(GDP)が世界各国と比較して下落の一途を辿っている理由は、日本国民が絶対に欲しいモノと絶対足らないモノが分らなくなっていること、

端的に言えば、現代日本社会において、何でも足りてしまっていて、欲しいモノ買いたいモノがなくなってしまったことである。こういふ社会では、経済というものはどんな政策をやってもダメである。

こうした時に、経済活動を活発

化するためには、「楽しむこと」によっておカネを使うことを考えなければいけないのである。

楽しむということの能力にかけでは、男性よりも女性の方がよほど長けている。

現代は女時である」というのである。

なるほど、思い当たる節がある。小生、この二年ほど新幹線通勤をしているのであるが、ある程度年配の方々の行楽団体と四季を通じて頻繁に乗り合わせることがある。

見ているとそれらの団体が見事に女性主体の構成となっているのである。

そしてオバチャン軍は一様にブランド物のリックサックを背負い、高価な運動シューズを履いてさっそう？としたものである。

男である小生も含めて、その中にぼつぼつといる男性軍のダサさとは好対照である。

まさに現代は「女時」である。